



2021年9月30日(木) 15:00~16:30

WebEx:

日本航空宇宙学会中部支部 オンライン特別講演会

講演題目

「空飛ぶクルマ」の現状と課題

—自家用パイロット/元航空ジャーナリストの視点から—

講師

西本 一郎 氏

名古屋大学 卓越大学院

「未来エレクトロニクス創成加速DII協働大学院プログラム」特任准教授



オンライン特別講演#2

■「空飛ぶクルマ」について

- ・定義
- ・種類: マルチコプタータイプと固定翼タイプ
- ・用途: 個人所有とエアタクシー(UAM)
- ・各社の開発状況
 - 1.BELL 2.Boeing 3.Airbus 4.Joby 5.Lilium 6.Volocopter 7.Skydrive
 - 8.Ehang 9.teTra 10.OPENER
- ・課題(バッテリー、安全対策、航空法、航空気象、社会システム)
- ・緊急着陸用パラシュート(Ballistic Parachute)
- ・ビジネスモデル
- ・まとめ

※講演内容は変更する可能性があります。



西本先生ご紹介

■経歴

西本一郎(名古屋大学 卓越大学院「未来エレクトロニクス創成加速DII協働大学院プログラム」特任准教授)

大阪府立大学工学部航空工学科卒業。1985年朝日新聞東京本社入社(技術系)。1989年より日経BP社にて記者(航空宇宙:防衛庁記者クラブ/Aviation Week & Space Technologyの翻訳、物流経済、旅行)、技術評価アナリストを経験後、2004年より産学連携事務局長に就任。通算6年にわたり産学官連携及び大学発ベンチャー(約250社)を専門に取材。2013年に日経BPコンサルティング シニアコンサルタント、2015年に日経BP社退社。2016年3月より名古屋大学リーディング大学院「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム」特任准教授、2019年1月より現職。米連邦航空局(FAA)と国土交通省航空局(JCAB)の陸上単発機・水上単発機の自家用パイロットライセンスを持つ(飛行時間259時間)。



本日は、「空飛ぶクルマ」の現状と課題 —自家用パイロット/元航空ジャーナリストの視点から—

トヨタ自動車が約425億円出資した米スタートアップのジョビー・アビエーションは5人乗りの機体を開発し、2024年に商業飛行を開始する。日本のスタートアップ、スカイドライブも2025年の大阪・関西万博で旅客輸送を目指すというニュースが話題になっている。

しかし、「空飛ぶクルマ」の実用化には、先端テクノロジーだけではなく、航空管制や航空法への対応、安全対策など社会システムとしての総合力が問われる。

CEATEC2019のNEC、CES2020のBELLとHYUNDAI/Uberを直接取材した講師が、自家用パイロット(陸上単発機・水上単発機)/元航空ジャーナリストの視点から、「空飛ぶクルマ」の現状と課題をお話します。